

スポット展示「あさみゅーで学ぶ！ 紫式部と戦国時代」

展示資料説明

① 朝倉館跡出土木簡<重文>

朝倉館跡北側の濠から出土した木簡で、薄い板片の両面に、和歌と漢詩が墨書されています。上部は山型に成形され、下部は欠損していますが、「山のはの心」の文字から『源氏物語』夕顔帖の作中歌「山の端の心も知らで行く月は 上の空にて影や堪えなむ」と書いたものと考えられます。

② 詠三十一首和歌

公家の富小路資直が、天文4年（1535）の越前旅行について記した紀行と和歌です。資直は越前下向の途中で、自分と同じように越前へ下った紫式部に思いをはせて、紫式部が塩津山の難所を越える時に詠んだ歌や、互いに遠国へと下るともとの別れを詠んだ歌を本歌取りして詠みました。

③ 勅撰名所和歌抄

『勅撰名所和歌抄』は和歌に名所や地名を読み込む表現技巧、いわゆる「歌枕」の指南書として編纂された名所和歌集です。越前の名所を詠んだ歌として、紫式部が越前下向の途路で「塩津山」を詠んだ歌が選ばれています。箱書きによれば、飛鳥井雅綱の書写本とされています。雅綱は飛鳥井雅親の孫で、家職を継いで各地の戦国大名に蹴鞠を伝授し、享禄2年（1529）には越前にも下向しています。